平成21年度安曇野市健康づくり推進協議会（第2回）　会議概要

1　審議会名　　平成21年度安曇野市健康づくり推進協議会（第2回）会議
2　日　　時　　平成22年2月18日　午後1時30分から午後3時05分まで
3　会　　場　　穂高健康支援センター　集団指導室
4　出席者　　高橋委員、上條委員、望月委員（代理：飯沢様）、長瀬委員、三沢委員
内田委員、青柳委員、竹内委員、重野委員、藤森委員、細萱委員、千國委員
竹岡委員　（欠席者：浅川委員、百瀬委員）
5　市側出席者　丸山健康福祉部長、松澤健康推進課長、川崎課長補佐、内川課長補佐
高橋保健師、久保田保健師、青柳栄養士、百瀬保健師、丸山歯科衛生士
笠井歯科衛生士、宮澤豊科保健センター課長補佐
岩崎明科保健センター課長補佐、関
6　公開・非公開の別　　公開
7　傍聴人　　0人　　記者　　0人
8　会議概要作成年月日　　平成22年2月19日

協　議　事　項　等

1　会議概要
1　開会
2　会長挨拶
3　協議事項
（1）平成21年度健診結果について
（2）平成22年度保険事業計画について
（3）その他
5　閉会

2　協議概要
（1）平成 21 年度健診結果について（事務局説明）

（委　員）乳幼児クリニックはどちらの先生にお願いしているのか。
（事務局）日赤の小児科の先生にお願いしている。
（委　員）好評か。
（事務局）１人当たりの診察に20分程度時間をかけて診ているので母親の満足度はあると感じている。

（委　員）育児教室参加者状況について、育児教室１は受診率が高いが、離乳食の段階になる育児教室２になると受診率が下がっているが何故か。
（事務局）１は比較的母親交流的な意味合いが強いが、２の方は知識のある第2子・3子の母親は参加しない方がいると思われる。

（委　員）特定健診の未受診者については特徴的なことはあるか。
（事務局）特徴的なことは把握していないが、特定健診が始まる前の基本健診の時代から取り組みが十分ではなく、スタート時点で他町村に比べ低かった。
また、基本健診に実施していた心電図検査及び眼底検査がなくなり検査項目が物足りないという声は多数聞いている。

（２）平成22年度保険事業計画について

（委　員）特定健診について22年度目標が34％で24年度が65％と話があったが、23年度はどれ位を計画しているのか。
また、チラシの中に目標の65％に達しない場合にペナルティーがあるとなっているが、もし目標に達せずペナルティーが課せられたらどれ位の負担増になるか。

（事務局）段階的な基礎作りのため最初の3年間で24％から34％に上げるということになっている。
平成23年度については44％が目標。23年度以降は厳しい目標となっている。
65％に達しない場合のペナルティーは国保から支払う後期高齢者への支援金の増額というペナルティーが課せられる。
現在安曇野市で後期高齢者への支援金は約10億円で最大10%のペナルティーなので1億円となり、約1万4千世帯が国保に加入しているので、一世帯あたり7～8,000円位の負担が発生すると思われる。
今後平成25年度から後期高齢者医療が廃止の方向で検討されているので、このペナルティーがどうなるか示されておらず不明確な部分がある。

（委　員）22年度の対策として、チラシを送ることになっているが、１～2割の人がチラシを見て、実際に行こうとする人がそのうちの１～2割の人だと思う。
この目標に達するには、市職員の力だけでは限界があるので、健康づくり推進員・自治会等の協力いただき、いろんな知恵を出していただき、より具体的な方策を打ち出していただきたい。

（委　員）虐待予防に努めるとあるが、具体的にどのようなことをしているか。
新聞報道で虐待により子どもが死亡した件も、各部署で子どもの状況を把握していながら実際には動いていなかったので、安曇野市ではどのような対策・行動をしようといているのか教えていただきたい。
（事務局）妊娠時から母親にアンケートを実施している。アンケート一つ一つの内容を確認し母親の気持ちの面・家庭の状況等で、出産後に支援が必要と判断された方には、妊娠期から訪問を行っていく。
出産後に虐待で亡くなる子は乳児期が多い。産後1ヶ月の間にうつ状態に陥る方や不安等抱えている方が多いので、新生児訪問に行かせていただき助産師や保健師の相談と共にうつを診断するようなアンケートを行う。アンケートの結果、心理的不安定になっている母親に対し継続して訪問等で支援を行う。母親の育児不安と気持ち的な負担を軽減することを目的に訪問事業を徹底している。健診と健康相談は、子と母親の状況を把握する場だが、健診に来られなかった方には必ずコンタクトを取って子・母親の状況把握に努める。
虐待を疑われるケースやハイリスクの家庭に対しては児童相談所や家庭児童相談室と連携をとりながら継続的な支援を行っている。
（委　員）新聞報道の事件もそういった事は言っていた。個人情報や親権等に阻まれ救えた命を防ぐことが出来なかった。
本当にお子さんを救う行動を担当者・担当部署・学校等で深く考えてやっていただきたい。
（事務局）お子様の命を最優先に考え、的確に行動するよう職員間へも周知したい。

（委　員）75歳以上の方は健診を医療機関で受けた場合の補助がないのか。74歳までが特定健診対象になっていて、事前予防よりも治療にお金をかけていくのか。
（事務局）後期高齢者の健診については、長野県後期高齢者医療広域連合会が保健者で健診を行うことになっており、広域連合から安曇野市が委託を受け後期高齢者健診を実施している。

これに対し広域連合から一人当たり3,000円の補助をいただき健診を行っている。
特定健診との違いは、特定健診は国で65％の受診率を定めているが、後期高齢者健診は努力義務ということで完全な義務化はされていない。
国の基準では、通院治療されている方は対象外にすることが出来る規定もあるが、安曇野市については全員の方を対象として健診を行っている。
さらに健診を充実させることで、特定健診にあわせて後期高齢者健診の方にも心電図検査を実施し充実を図っている。
75歳以上は元気な方もいるが、病気を抱え通院している方が多い現状もあるので、主治医の先生から健康状態について見守っていただくと国は考えていると感じている。
市町村によっては、従来75歳以上の方も人間ドックの補助を行っているところもあったが、県内は統一で広域連合になっているので、現在の広域連合では人間ドックの補助等は行っていない。国としても後期高齢者の人間ドックの補助を再会してほしいと要望があるが、安曇野市としては従来から69歳までの人間ドックの補助になっているので、近隣市町村の状況をみながら取り組んで行きたい。

（委　員）地域の産科医療体制の確保について、日赤が新しくなるこの機会に是非産科を再開してもらいたいと市民からの要望が強い。会長や部長には日赤と話す機会には要望してほしい。
（事務局）産婦人科医確保の見通しについて、日赤から聞いているのは県内の中で産婦人科医を確保することは出来ないのが現状。
確保するためには県外から医者を確保してこないことには、県内では難しい。

（委　員）安曇野市の医療費はどのくらいか。
（事務局）国保の医療費は年間約65億円で、75歳以上の後期高齢者の医療費が約70億円で併せれば若干増えていると思うので約１50億円の医療費となっていると思う。
後期高齢者の一人当たりの医療費は年間80万円位となっている。

（委　員）福島県西会津町では脳溢血の人が多かった。健康について熱心に考えた結果、土づくりをして3年後医療費が減った。安曇野市でも土作りをして、いいものを作れば健康づくりにつながると思う。発芽玄米を給食に使った学校では、非行がなくなり、成績もよくなったという話がある。よい事を実施しているところがあれば安曇野市でもやってもらいたい。

（委　員）健康教室について、男性の参加が少ないと聞いていたが、市としてはどのような働きをし、現在どのような状況かお聞きしたい。
（事務局）健康教育は①と②に分かれている。①の各種教室は、健康推進課が主催するもので、この中に「男性のための体操教室」を実施して大変好評だった。これにより普通の健康体操教室へも男性が参加されるようになった。
②の健康教室の充実については、健康づくり推進員その他の団体から依頼を受け、健康推進課が協同して実施している。健康づくり推進員、食会さんの中にも男性もいるので、この方々を核にして、男性の参加を増やせるように来年度も計画している。
（委　員）教室を開いた後の継続率はどうか。参加された男性の方は、自分達で独立し、健康のために継続しているのかどうか。
（事務局）男性の体操教室は今年度が初年度。3年を目安に支援し、その中でリーダー作りをして自主活動へ…と考えている。現在はリーダー育成というかたちで、今年度の参加の方に声掛けし、更に友達の輪を広げ活発にしたい。
（委　員）地区の公民館で年1回体操教室を主催しており、その後のアンケートの結果で継続してほしいという声が毎年あるが、生かされていない。
分館単位での健康教室だと高齢者も参加しやすいので増やしていただきたい。
（事務局）高齢者福祉と協議しながら、きめ細かな活動をしていきたい。

（３）その他

○「食育講演会」

2月28日（日）午後1時30分から穂高健康支援センター

○「安曇野市こころの健康を考えるつどい」

3月13日（土）午後1時から豊科ふれあいホール